

倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（全体会） 会議録

1 日 時 平成28年2月2日（火）午前10時～10時45分

2 場 所 市役所大会議室（本庁舎3階）

3 出席者

（1） 委員14名 欠席4名 （松田委員、岩崎委員、牧野委員、谷本委員）

（2） 事務局2名（美船課長、竹田主任）

（3） オブザーバー8名（琴浦町：企画情報課 遠藤課長 北栄町：政策企画課 小澤課長、
中野室長 三朝町：企画観光課 福田主任 湯梨浜町：企画課 中本課長
広域連合：中部創生課 山崎課長 倉吉市：地域づくり支援課 坂本課長、仲倉係長）

4 会議の概要

会議次第に基づき、定住自立圏共生ビジョン関係事業の取組状況の報告及び新たな取組みについて意見をいただいた。

5 会議の内容

1 開会

美船課長：皆様、本日は大変お忙しい中お集まりいただき、本当にありがとうございます。定刻となりましたので、これより、平成27年度倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会します。

2 会長あいさつ

美船課長：そうしますと、まず初めに、山田会長からごあいさつをいただきたいと思います。

山田会長：定住自立圏共生ビジョン懇談会でございますが、中部圏域で共同してやれば効果的な政策があるのではないかとということで、様々な政策をつくりまして、それに対して皆様のご意見をうかがってきました。この会ですが、前回は一年前になりますので、この一年間にどのように進捗したかということをご皆さんでチェックいただきたいということが一つです。二つ目は、今日の協議事項にあります。未婚・晩婚化の対策を共同でやることで、少しでも未婚が少なくなる、晩婚が解消されるということをご皆さんで考えていきたいので、ご意見をいただきたいと思います。概ね1時間の会議を予定していますので、是非、色々なご意見をいただきたいと思います。

3 報告事項

美船課長：それでは会議に入らせていただきたいと思いますが、その前に事務局からのお詫びと、事務連絡として2点ご連絡を申し上げます。まずお詫びでございますが、この会につきましては例年11月頃に開催しておりますが、昨年度は地方創生の年ということで、これに係る計画づくりをこの秋にめがけて取り組んでまいりました。そして、その地方創生の取組みの結果を定住自立圏の取組に反映させたいということで、今回の時期に開催をさせていただいたところでございますので、ご理解をいただきたいと思います。それから、事務連絡です。会議の成立要件についてでございますが、本日の出席委員は18名中ただ今14名の委員の方にご出席いただいておりますので、本懇談会の設置要綱第6条第2項の開催要件であります委員の過半数の出席を満たしておりますので、まずご報告を申し上げます。欠席の委員につきましては、松田委員、岩崎委員、牧野委員、谷本委員でございます。次の本日の日程でございますが、会議次第に基づきまして、報告

事項、協議事項へと移ってまいります。会議は概ね1時間程度を予定しておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。それでは設置要綱第6条第1項の規定によりまして、これからの進行を山田会長様にお願いしたいと思います。ではよろしくお願いいたします。

山田会長：それでは、さっそく始めさせていただきます。3番目の報告事項の定住自立圏共生ビジョン関係事業の取組状況について事務局から説明をお願いします。

竹田主任：そういたしますと、お手元の資料のうち、資料番号2番をご覧ください。

まず初めに、資料左側の平成26年度の決算状況について説明いたします。平成26年度は、第1次共生ビジョンの最後の年度となりますが、政策分野では医療、福祉等の10の分野で13の協定項目に基づき36の事業を実施しました。この年度では、総額で2億4,138万円の予算額に対し、2億740万9千円の事業費を執行いたしました。個別の執行額の説明については、時間の都合上割愛させていただきますが、主なものとしましては、医療の政策分野で、緊急医療体制の充実に係る協定項目のうち、中部休日急患診療所等の運営に1千153万5千円を執行しております。これは、広域連合への委託事業としまして、圏域の住民が適切な救急医療を受けることができるよう救急医療体制の運営に必要な費用を負担したもので、当該年度では中部休日急患診療所の耐震診断調査に係る費用の一部も負担しております。

また、福祉の政策分野では、子育て支援体制の整備及び充実に係る協定項目のうち、病児・病後児保育事業として1千854万8千円を執行しております。これは、病児保育事業を野島病院に、病後児保育を敬仁会にそれぞれ委託して実施しているもので、運営経費を負担しております。

次に、産業振興の政策分野では、広域観光体制充実及び強化による広域観光の推進に係る協定項目のうち、観光商品の開発強化等による観光推進事業として7千229万8千円を執行しております。これは、観光商品の開発・強化、並びに既存の観光地、施設等の充実により、圏域の観光事業の充実にを図ることを目的に、倉吉観光MICE協会の運営費の補助等をおこなっているものです。

その他事業の詳細につきましては、お手元の資料4に進捗管理シートとしてまとめておりますので、各委員様におかれましてお読み取りいただきたいと思っております。

続きまして、本年度の事業費についてご説明いたします。資料2の右側の内容になりますが、本年度は第2次共生ビジョンの初年度ということで、10の分野で協定項目が一つ増え、14の協定項目により37の事業を実施しております。本年度では、総額で2億6,689万7千円を事業費に見込んでおります。

個別の内容については、割愛させていただきますが、主なものとしましては、中部休日急患診療所等の運営に1,153万5千円を、病院群輪番制病院の運営に845万4千円を計上しております。

また、福祉の政策分野では、病児・病後児保育の活用に1,844万2千円を計上しております。

次に、産業振興の政策分野として、広域観光体制の充実等に8,148万3千円を計上しております。また、地産地消の分野として、地産地消推進事業として、2,035万円を計上しております。これは、中部発食のみやこフェスティバルの運営費などに当て

られるものです。

次に、交流・移住の政策分野では、田舎暮らし体験プログラムの連携・実施に525万6千円を、移住情報の発信事業について1,582万8千円を計上しています。

その他、各項目の詳細については、資料4の進捗管理シートにまとめておりますので、各委員様でお読み取りいただきたいと思ひます。

なお、前年度予算額に対しては、10.57%の増額となっております。

つづいて、平成26年度の決算状況に関する取組みの成果についてご説明いたします。お手元の資料3をご覧くださいませでしょうか。定住自立圏共生ビジョンでは、各協定項目について、取組みの成果指標を設定しています。これは、その状況について昨年度までの成果をまとめたものでござひます。表中央の「実績値」の項目がその内容となりますが、主なものを申し上げますと、医療の政策分野におきましては、当該年度で救急医療施設の利用として2,803人の利用者がござひました。

また、福祉の分野では、子育て支援体制の整備及び充実としまして、病児・病後児保育の利用者が当該年度で792人となり、医療・福祉の分野ではいずれの取組みでも利用者数が増加しており、医療・福祉に対するニーズの高さを感じ取ることができると思ひます。

また、産業振興の分野では、広域観光体制の充実・強化の取組を進めているところですが、この成果としまして中部の主要観光施設の当該年度の入込客数は139万人でござひました。これは、前年度から4万3千人増加しているものでござひます。

また、同分野の企業誘致の推進の取組につきましては、3件の企業誘致がござひまして、65人の新規雇用を実現しております。平成27年度におきましても、規模拡大などで更なる雇用を進めていくと伺っているところであり、第2次共生ビジョンで新たに取り組むこととなった雇用奨励制度などの活用を含めながら、取組を推進していきたいと考えているところでござひます。

なお、雇用奨励制度の創設につきましては、予定どおり本年度中に各市町との調整が完了し、平成29年度から本格的に運用を始めることになっております。

次に、交流・移住促進の政策分野では、空き家バンクの連携等による移住の促進を行っておりますが、当該年度におきましては、この取組に関連した事業により398人の移住がござひました。これは、前年度から180人増加しているものでござひます。要因としましては、各市町による田舎暮らし体験ツアーや都市圏で開催される移住相談会への参加、インターネットでの情報発信による取組みの成果によるものだと感じておりますが、都市部での田舎暮らしへのニーズが高まっていることもその一つであると感じております。各市町におきましても、地方創生に係る地方版総合戦略の取組と併せまして、力を入れていく分野でござひますので、今後も取組みを推進していきたいと思ひます。以上、取組成果の主なものを説明させていただきましたが、時間の都合上、そのほかに項目につきましては、各委員様におかれましてお読み取りいただきたいと思ひます。

事務局からの説明としてしましては、以上でござひます。

山田会長：ただいまの事務局からの報告に対して、何かご質問なり、ご意見がござひましたらどの分野でも結構でござひますので願ひします。

福井（恒）委員：産業振興の分野で、広域観光で観光客が4万3千人増加ということですが、内訳

なり要因など分かれば教えてください。

竹田主任：観光客の増加の要因としましては、赤瓦・白壁土蔵群周辺の観光客が増えたということ
を伺っています。なお、県内全域の観光客数の伸び悩みについては、その前の年の出雲
大社の遷宮の関係の反動で大幅に減少していると聞いております。

山田会長：他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか、そういたしますと次の内容に移らせてい
たいただきます。

4 協議事項

山田会長：次の協議事項について事務局から説明をお願いします。

竹田主任：そういたしますと、新たな取組について説明をさせていただきます。昨年度に取りまと
めました第2次定住自立圏共生ビジョンの協議事項の内で継続検討事項としておりま
した未婚・晩婚化の解消への取組の推進について、この度、実施に向けての一定の目途
が立ちましたので、当懇談会でご意見をうかがいたいと考えております。

本日は、倉吉市の担当課であります地域づくり支援課の坂本課長と仲倉係長に同席して
いただいておりますので、内容について初めに仲倉係長から説明をさせていただきます。

仲倉係長：地域づくり支援課の仲倉です。資料5をご覧くださいと思います。新たな取組みと
して未婚・晩婚化の解消への取組みの推進についてご提案させていただきます。まず初
めに、未婚・晩婚化につきましては、全国的に、圏域においても進行している状況でご
ざいまして、晩婚化としまして、結婚する時期が遅くなっており、未婚率の上昇という
ことで、結婚しない人が増えているという状況がございます。

二つ目の点として、圏域での将来を考えます中で、人口減と少子高齢化の社会の中で、
このような状況が、絶対に無視できない状況にあるということがございます。

次に3点目としましては、結婚を希望する独身男女の出会いなど、婚姻に結びつく機会
は、年々失われつつあるということです。これらのことから、行政や地域が協力しまし
て出会いの場の提供や取組みが必要になっているということが圏域の課題となって
います。

そういった中で、各市町でも各種取組を実施しております。倉吉市では、外部講師を迎
えましてセミナーを行い、未婚者のコミュニケーション能力の向上する取組みを開催
しておりますし、各町におかれましては出会いの場としての婚活イベント、縁結び支援
員の配置など、各種取組を推進しているところでございます。

そういった中での課題としまして、各市町が取組みを進めている中で、なかなか成果
が上がっていないということが挙げられます。そして、やはり継続的な取組やサポート
体制を充実させていくということ、それから婚活イベントを開催しましても、なかなか
参加者が集まらないということがございまして、地元イベントへの参加には抵抗感があ
るという意見を伺っているところでございます。

このように市町単独では、婚活事業の取組には限界があるということがございます。そ
のため、中部圏域の中で結婚推進事業を共同で実施することで、参加者へのPRや支援
が効果的に実施できるのではないかと考えます。そして、各市町での成果にこだわらず、
圏域での成婚を進めていけば、結果的に圏域での定住に繋がっていくということがござ
います。その他にも、共同化による事務の効率化が想定されております。

この様な経過、背景がございまして、定住自立圏共生ビジョンの中に未婚・晩婚化の推

進の取組を加えていこうという状況になった次第でございます。以上、経過等を説明させていただきます。

竹田主任：続いて説明させていただきますが、この取組を進めるために定住自立圏共生ビジョンの内容を変更させていただきたいということで、その変更のポイントを説明させていただきます。

まず、圏域の課題の項目に未婚・晩婚化に係る項目を加えさせていただきました。

次に、結びつきやネットワークの強化の協定項目の交流・移住の項目に未婚・晩婚化の解消への取組みの推進を加えさせていただきます。

次に、この項目に広域連携婚活事業としまして、未婚・晩婚化の解消のための婚活イベント、セミナー等を各市町で共同して企画し、実施するという項目を加えております。次に、この取組みの成果指標として、婚活イベント、セミナー等の参加者同士の成婚組数を設定しまして、目標としては平成28年度から毎年度ごとに3人の成婚を目指したいと考えております。

最後に経費的な部分になりますが、県の結婚に向けた出会いの機会等創出事業補助金、あるいは国からの地方創生加速化交付金などを活用しながら、毎年度200万円程度の事業費を見込んでおります。

これらの変更に基づきまして、本日この懇談会でご意見を頂戴いたしまして共生ビジョンの変更を3月末付けで実施したいと考えております。なお、この案件につきましては、1市4町での定住自立圏の形成協定の締結をしておりませんので、各市町の3月議会にお諮りしまして、その後に形成協定の変更を実施したいと思います。

事務局からの説明は以上でございます。

山田会長：それでは、ご質問、ご意見をいただきたいと思っております。

遠藤委員：湯梨浜町の遠藤でございます。今回の取組を拝見いたしますとどちらかというと、イベントの企画ということが前面に出ておりますが、課題の中にあつたように、イベントになかなか人が集まらないということがございます。僕たちも、地元でこのようなイベントを企画・参加したことがありますが、最終的には独身者を数だけ揃えてイベントが終わるということになってしまうのですが、やはり結婚をしたくないという独身の方、したいのだけど出会いの場がないという方がおられて、イベントの企画が来てもそれに飛び込んでいく気持ちにならないということがございます。その前に、空き家バンクや人材バンクではないのですが、結婚をしたいけど出会いの場がない人たちを把握するなど、垣根が低くなる取り組みなどでアプローチしてく方がいのかと思います。また、結婚したくないという方の気持ちを結婚したいという気持ちに変えていく取組も大事で、イベントで男女を結婚させるということは、単発のイベントだけでは難しく、その前段としてそのような取組が必要だと考えております。

山田会長：今後、具体的な方策を考えていこうということだと思っておりますが、その他ございますか。

福井（恒）：3番目のところに、地元イベントへの参加の抵抗感があるということですが、おそらくイベントが終わってからのアンケート結果によるものだと思います。

まちづくりもそうかもしれないのですが、初めに答えを出してしまうとつまらないと思っています。結婚に向かった取組をやっていくのだけど、そこに意識が集中してしまうと、どうもつまらなくなりがちです。実は僕たちは、何年か前から移住カフェという取

組みで、移住者と地域の方を結ぶ交流会をやっているのですが、その中で知り合って結婚される方もいるわけですが、ここでは初めそういう意識はないわけです。

何が言いたいかというと、こうした取組を進める中で、婚活というのは前面に出さなくてもよくて、要するに場づくりを進めていくことだと思いますが、それを見える化して参加を増やしていくことが大事だと思います。また、興味付けということも大事だと思いますので、キャッチコピーも大切です。

私の考えとしては、答えを出してしまわないということも手法の一つとして考えているところです。

山田会長：お二人とも、このような取組は賛成ですが、その具体的なやり方についてご意見をいただいていると思いますが、このような今後の取組に対するアドバイスなどをいただくと助かりますね。

福井（利）委員：北栄町の福井でございます。出会いを求める男女のために、先ほど遠藤さんが、そういう人たちを取りまとめる前段の取組が必要であるとおっしゃいました。現在、鳥取県から鳥取県法人会が委託を受けて「えんトリイ」という仕組みを作っております。これは、結婚を希望する男女が登録をすることによって、しかるべきアドバイスをなさってくださる専門の方のお世話によって、上手く出会いを作っていこうという仕組みであるわけですが、スタートしたばかりですが、既にそういったシステムがある中で、新たな組織だとか仕組みを作るといふことよりも、うまくこれらのシステムに連携するという取組が効果的であると考えます。まだスタートしたばかりですので、倉吉市を中心として1市4町での結婚を希望する人たちと行政とが上手く連携させながら、さらに広域的な出会いの機会を確保できることができるのではないかと考えます。独自のものではなくて、上手くこのような仕組みと連携するほうが、より具体的な効果が期待できると考えます。

山田会長：今後の取組に活かしていただくということで、考えていただきたいと思います。その他ございませんでしょうか。

藤原委員：鳥取中央農協の藤原です。婚活については農業の場面でも、担い手であったりJAの職員であったりということで色々とお声掛けをいただいております。農業委員さんから一生懸命声をかけていただいているという市町もございます。そういった中で、圏域の市町では、これまでも一生懸命取り組んでおられているわけですが、この成果について教えていただきたいと思います。

そして、このビジョンの中で成果目標として3名となっておりますが、3名というのは少ないのではないかなという思いがございます。この根拠でありますとか、これに至る経過などをお聞きしたいと思います。

この関係につきましては、こちらやはり農協として、組織として、それから青年部でありましたり、それらに縁がつながるようになっていきたいと思っております。

山田会長：今までいただきました意見について事務局から説明をお願いしたいと思います。

仲倉係長：委員の皆様からアドバイス等をいただきましてありがとうございました。この未婚・晩婚化の取組につきましては、数年来、倉吉市の方でも取組を進めておりますが、率直なところ、取組について苦慮している状況でございます。先ほど福井委員から鳥取県のえんトリイのお話もございました。鳥取県も未婚・晩婚化の取組を進めておりますし、

各市町でも各種取組を行っている状況でございます。この状況の中で、役割分担ということ考えさせていただきながら、鳥取県でえんトリーという個々を結び付ける取組がスタートいたしました。また、鳥取県では、広告・CMなどで「結婚いいよね」といったPR施策を取り組まれています。そういった結婚の機運を高めるといふ鳥取県の取組を推進するなかで、市町も協力をしていきたいと考えます。その中で圏域の役割としましては、圏域内の結婚を希望する方へのアンケートの結果によりますと、やはり出会いの場が欲しいということと、男女の付き合い方など、コミュニケーション能力を身につける場を作って欲しいという意見をいただいているところでございます。そういった研修会や出会いの場の設定については、圏域で連携して取り組んでいけたらと考えています。そして、圏域で取り組むので各市町では取り組まないということではございません。各市町においては、結婚をしたいがそういった場に参加できない人、なかなか結婚を意識できない人をどう参加させていくかということ、地域住民の方と連携して進めていくことが大事であると考えます。また、各市町で取り組んでいる縁結び支援員やコーディネーターの方たちの力を借りまして、地域で結婚を希望するがそういった場になかなか参加できない方たちをどうやって支援していくかということなど、それぞれ役割分担をしながら、意識して取り組んでいきたいと思っております。

もう一点、目標を3組として設定させていただいた理由でございますが、倉吉市では平成22年度から取組を進めておりまして、当初は出会いの場づくりを中心に仕掛けをしておりました。これにより、その場でカップリングするという成果はございましたが、その後の追跡をしてみますと、その後1・2回会ったが、その後は会わなくなってしまったということがほとんどで、実際に成婚に至った例は1組というのが実態でございました。そういった経過がございまして、男女が出会って結婚に至る取組は難しいと認識しておりまして、その後は、参加者のコミュニケーション能力を高めて、いかに成婚させるかという手法に変えてきたという経過がございまして、このような倉吉市の実態を踏まえまして、参加者の成婚ということで3組を目標と設定させていただいた次第でございまして。

山田会長：本日は4町の方からも出席いただいておりますが、そちらの方での現在の取組の状況などございましたら、ご紹介いただければと思います。いかがでしょうか。

坂本課長：倉吉市の坂本です。一度、中部圏域の平成26年度の実績を集約させていただいた資料がございまして、こちらで成立カップルの数についてお話をさせていただきます。

まずは、倉吉市でございますが、婚活事業として5回実施しまして成立カップルが8組でございました。また、三朝町さんでは2回で7組、湯梨浜町さんでは回数について把握しておりませんが1組ということでございます。それから北栄町さんでは、1回で8組、琴浦町さんでは1回実施で8組ということでございます。これによる成婚については、申し訳ございませんが把握できておりません。

山田会長：これについては、とりあえず参加した男女が仲良くなったということでございますね。

藤原委員：今伺った中で、やはり3名ではなくて、これから頑張っていく気持ちを込めて、もう少し大きく目標をもって頑張っていってはどうでしょうか。

山田会長：その他いかがでしょうか。ここで確認ですが、この取組については皆さん賛成ということでございますね。ただ、今回ご意見いただいたことについては、実施していく中で参

考にしてくださいということによろしいでしょうか。

生田委員：ひとつよろしいでしょうか、体育協会の生田でございます。婚活イベントとセミナーについては大事な取組だと思います。これまで色々なご意見がございましたが、やり方というところが大切だと思います。例えば、カップルができてそこから成婚に至らないということが多いということですが、やはりカップルになった後のサポート体制が重要だと思います。カップルになった方たちを、その後どう導いていくかという取組みが大切ではないかということが私自身の考えでございます。

山田会長：先ほど遠藤委員が、結婚したくない層をしたい気持ちにさせるにはどうしたらいいかという話がありましたが、今結婚している人たちが楽しそうにしていることが大事だと思います。結婚している人が嫌そうな顔をしていると増えないと感じます。

他にはいかがでしょうか。この取組みについては、皆さん是非やってくださいということだと思いますので、これからもここでの皆さんの意見が取り入れられながら、どんどん良い内容にしていいただければと思います。

では、協議事項は以上にさせていただきたいと思います。

5 その他

山田会長：その他の事項として事務局から何かございますか。

美船課長：そういたしますと、今回いただきました意見を踏まえながら、未婚・晩婚化対策につきまして定住自立圏の取組に加えるよう手続きを進めてまいります。

今後の予定としましては、定住自立圏形成協定にこの案件を加えるため、法定手続きとして各市町の3月議会に議決を求めることとしています。その議決後に3月末付けで共生ビジョンの変更を行うということで、このようなスケジュール感で進めてまいりたいと思いますので、よろしく申し上げます。

6 閉会

山田会長：この際、確認として聞いておきたい点などございませんでしょうか。よろしいでしょうか。そういたしますと閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。